

川崎市民のための
生涯学習情報誌

Stage Up

ステージ・アップ

通巻 No.185

2012年4月1日 発行

(隔月発行)

ホームページからも
ご覧いただけます！



シリーズ「市内美術館・博物館とその所蔵品から」
「細山の后映(ごえい)」一九九六年 一九四〇—三〇・三
山田土筆(どひつ) 細山美術館

誌上ギャラリー

自然豊かな郷土の風景をぜひ作品にして残しておきたい・・・
そんな作者の思いのあふれる美術館があります。開発著しい新百合ヶ丘の丘の上、木々に囲まれて静かにたたずむ山田土筆細山美術館です。幼いころから絵を描くことが好きだった山田さんは日展審査員田中以知庵との出会いによって日本画の世界を知り、弟子となって、高校の数学教師を勤めながらも絵を描き続けました。

郷土里山の原風景、日本各地の自然豊かな情景などを心ゆくまで楽しめる私設美術館です。

所在地：川崎市麻生区千代ヶ丘6-3-7 小田急線新百合ヶ丘駅から「新02」系統のバス「千代ヶ丘3丁目」下車徒歩3分

電話：044-966-4083 ※土・日・祝日のみ開館 10時～16時 無料

もくじ

- 2 まち・ひと・多面体
- 3 シニアのパレット
- 4 特集 “読書のまち・かわさき” の取組
- 6 施設めぐり
- 7 情報ポケット



発行・(公財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1

TEL 044 (733) 5560(代)/FAX 044 (739) 0085

<http://www.kpal.or.jp/>

ステージ・アップ TEL 044 (733) 5811

E-メール: stage-up@kpal.or.jp

当財団は市民の主体的な学びと活動を支援するため諸事業を推進しています。

まち・ひと・多面体



“王禅寺中央大学” ～保護者・地域・学校がひとつになって～



生徒数の減少などにもな開講式で講師の紹介って、白山中学校と王禅寺中学校が統合され、2008年に誕生した王禅寺中央中学校。夏休み前日の7月21日(木)、“王禅寺中央大学”が開かれると聞いて訪ねてみました。

王禅寺中央大学とは保護者と地域住民などが一体となって取り組む体験学習のこと。市内では多くの小中学校が全校または学年単位で文化教室や体験教室といった学習活動に取り組んでいますが、それは主に教職員が企画・運営の主体となって行うもの。一方、王禅寺中央大学はPTAが企画・運営の主体となって取り組んでおり、講座内容、講師選びから講師の招請までを一手に引き受けています。統合されてできた新しい中学校を盛り立て、生徒たちに充実した学校生活を過ごさせたいと、23年度も現PTA会長平井洋二氏を中心に保護者・地域・学校が力を結集して取り組みました。



絵手紙教室のひとコマ

この日の講座は13、講師陣は60人、さらに約30人のPTA役員さんたちがお手伝いに加

わっていました。教職員も校 長自ら講師をするなど、協力を惜しみません。

体育館では県立百合ヶ丘高校のダンス部員が元気いっばいにダンスの指導、武道室では和太鼓の打ち



-190℃の世界の実験

方教室、着物の着付け教室やパン作り教室等もあって多彩。ソバ打ち教室には地元白山まちづくり協議会の方々が講師として参加していました。男性講師は「いやー、定年退職後何かを身につけたいと思って習い始めたのですよ」と笑顔で答えます。液体窒素による実験教室「マイナス190℃」では、青少年科学館から派遣されたボランティアグループ「かわさきアトム工房」の方々の指導に生徒の目もクギづけ。

絵手紙教室・似顔絵教室でもプロ級の講師の丁寧な指導に生徒は興味津々の表情。「いろいろな世界を知ってほしい。地域への愛着・誇りを持ってほしい」と願う前PTA会長辻憲一郎氏の言葉に納得しました。

■問合せ：王禅寺中央中学校 044-987-0066

野川にある緑を 知る・学ぶ・遊ぶ・育てる・守る

～野川はあも～

南野川特別緑地保全地区管理運営協議会

川崎市の中でも比較的緑や畑が多い宮前区野川。稲荷坂バス停からふと目を上げたところに、こんもりとした雑木林が見えます。ここが“野川はあも”の活動拠点、南野川ふれあいの森です。特別緑地保全地区の指定を受けたこの森が荒れてきていることに心を痛めた有志が、平成16年に立ち上げ、『大人も子どもも力を合わせて楽しむ会』として活動しています。

初めて取材に伺った日は台風直後の活動日で倒木が何本もあり、その片付けに追われていました。倒木の枝を落とし、その枝でカントリーヘッジ（自然素材の柵）を造りました。小さい子どもも大人と一緒に参加してノコギリを引きます。

幅広い年代層が集う“野川はあも”はその特徴を活かして、各自が得意分野を受け持ちます。専門知識のある人が“森の観察会”を開きます。刃物の扱い方を指導するのは大人ですが、準備体操は中学生の号令で行われていました。



会を立ち上げる前のこの森は「近寄ってはいけない」と子どもに言うほどうっそうとしていて、暗く危険な森だったそうです。7年間の活動で光の入る明るい森になり、林床植物が目覚まし、キンラン・山百合・エビネなどが咲くようになりました。散策に訪れる人も増え、夏休みには虫取り少年たちの人気スポットになりました。

「人が手を入れることで生態系が戻りつつあるこの森を、人の手で荒らさないようにしていかななくては…」会長の小林菊代さんは、雑木林の役割を大切にしていきたいと話してくれました。

この森の木々には寿命を迎えたものも多数あり、今後の課題はたくさんあります。しかし「色々な人が集い、自然を体感できる場所でありたい」という願いは発足当初から変わりません。“野川はあも”の活動が一步一步前へ進み、森と共に成長している様子に、地に足の着いたたくましさ、私たちの心を包み込んでくれるようなぬくもりを感じました。

■問合せ：野川はあも
<http://haamo.216.jp>





食の安心・安全行動 提起・実行グループ
Uzumaki(うずまき)
 ~食をとおして地域づくり~



ウツキ



マツキ

専修大学生考案のイメージキャラクター

昨年の震災後、『安心、安全』という言葉を経験で目にします。「今、社会で一番必要とされているのは何なのか?」と考えていた時、『食の安心・安全行動 提起・実行グループ Uzumaki』の文字が目にとまりました。グループ発起人の山本善保さんにお話を伺い、様々な活動に参加取材させていただきました。

「退職後には地域に戻って何か活動がしたい」と思っていた山本さんは、その第一歩として男女共同参画センター“すくらむ21”で行われた『地域リーダー育成セミナー』を受講しました。その後、現職中から考えていた“食の大切さ”を発信する市民活動をしたと、2007年11月にこのグループを立ち上げ、「理論では無く、誰でもできる活動や体験を通して食の大切さを体感すること」を第一に活動を始めました。現在会員は45人、様々な活動の中から会員それぞれが興味のある分野を中心に置いて活動しています。



食の循環

体のもととなる食べ物はどこで栽培され、どのように調理され、生ごみはどうなるのか。「一連の食物の流れを知ることは大切です。それは社会全体のしくみを理解することにつながります」と山本さんは話します。「自分の口元・足元・地元を大切に、毎日何気なく食べているものから環境問題が見えてくることに気づいて欲しい」「冷蔵庫の中から宇宙を見て欲しい…」こうした考えがUzumakiの活動のもとになっています。

地産地消

毎月第3木曜日に“すくらむ21”で行われている『かわさきそだち野菜市』、ここには川崎市内の農家で作られた旬の野菜が並びます。「かわさき育ちの野菜ですよ～」と元気な声も響きます。地元の取れたての野菜を食することは美味しいだけでなく、体にも良いので一石二鳥。また、地産地消は輸送で出るCO₂の削減につながり、ひいては社会全体の安心・安全につながるといいます。



10時のオープン前から常連の方々が集まってきました。「早く来ないと無くなっちゃうのよ」「おいしいから毎月楽しみにしているのよ」と、並べているそばから選び始めます。「お母さんそんなに買ったなら持ちきれないだろう? 運んであげるよ」と声がかかっても「大丈夫よ!」と笑い、両手いっぱいの野菜をうれしそうに抱えて帰っていきます。

食育

食べ物の安全性に関心が集まる中、食事内容にも気づかう人が増えてきています。

Uzumakiは「かわさきそだち料理教室」「親子料理教室」など、家族や仲間とのコミュニケーションを大切にしながら、健康的な食事を提案しています。



栽培

「農業は農家の方々が考えるのではなく、社会全体で考えるべきなのです。食べるのは自分たちで、それによって健康が左右されるのだから…」堆肥(たいひ)づくり教室や野菜づくり教室、また、毎週2回のUzumakiファーム(農園)での農作業と活動は多岐にわたっています。



Uzumaki発起人の山本善保さん

今後の活動

グループ名のUzumakiは、市民・行政・生産者を巻き込んだダイナミックな渦巻きをイメージしたものだそうです。「市民活動は広がらなければ意味がない」という山本さんの考えを反映したネーミングで、**～生産から消費まで“食”をみつめるリバーサイド地域づくり～**を目指し、「南北に長い川崎市を食でつなぎたい」と構想は大きく広がります。

取材をした半年の間でも、専修大学ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科2年生の学生さんたちがUzumakiの紹介チラシや動画を作ったり、イタリア料理の先生の指導で『川崎育ちDeイタリアン』という料理教室を開講したりと、新しい取組が次々と展開されていました。その活動の様子に、驚きと共に大きなパワーを感じました。

川崎を中心にした渦巻きがどこまで広がっていくのか、今後の活動が楽しみです。

問合せ: Uzumaki (うずまき)
 ホームページアドレス
<http://web-k.jp/uzumaki/>



市民活動のプラットフォーム

特集

知っておきたい! 活用したい!

“読書のまち”

川崎市では2000年(平成12年)の『子どもの読書年』を契機に“読書のまち・かわさき”事業を立ち上げ、「読書のまち・かわさき事業推進委員会」をとりまとめ役として読書活動を推進してきました。川崎市ではこれまでも様々な形で市民ボランティアの方々が読書活動に関する取組をしていましたが、この事業を契機に、保護者やボランティアのご協力を得ながら、“朝読書”や“本の読み聞かせ”などの取組が一層活発に取り組みられるようになりました。また、学校と図書館の連携活動など、新しい展開も生まれました。2008年(平成20年)には『国民読書

〈学校や地域で〉

学校の取組から ～朝読書・読み聞かせ・図書室の活用・ボランティアとの連携など～

読書活動の推進のため、市内の各学校では全校あがりの朝読書、休み時間や放課後の読み聞かせなど様々な取組が行われています。小学校2校を例にあげてご紹介します。

◇住吉小学校では 毎週火曜日、全校で朝読書に取り組んでいます。クラスによっては担任やボランティアによる読み聞かせもしています。読書活動には保護者やPTAのOBが多数ボランティアとして参加しており、図書の整理・点検、図書室のレイアウト、児童への読み聞かせ等の活動をしています。この日も中休みの校内放送を合図に子どもたちが我先にと図書室にやってきました。住吉小では読書がすっかり身近なものになっているようです。



中休みの読み聞かせ

◇南百合丘小学校では 週2回朝読書の時間を設けていますが、児童は持参した本、図書室から借りてきた本、学級文庫にある本などを15分間黙々と読み続けます。11月の読書週間には上級生が一对一で下級生に読み聞かせをするという取組もしています。現PTAやOBなどで構成されるボランティアは読み聞かせ・本の修理のほか、中休みの時間には毎日児童の図書委員とともに図書室のカウンター業務もしています。現役の保護者やPTAのOBたちが学校図書館を支えているのです。

上級生による読み聞かせ



学校図書館の市民への開放から ～市立小・中・高校14校の図書館開放～

市内14校の公立学校が、土・日曜日を中心とした教育活動に支障のない時間帯に図書室を開放しています。閲覧のみがあり、児童生徒のほか親子連れや大人のみ利用ができます。運営は多くの市民ボランティア等によって支えられています。

◇井田小学校では 井田小の図書室は毎週土・日曜日の11時から15時まで市民に開放されています。当時の校長先生から「できないでしょうか」と相談されたPTA役員たちの全面的な協力で開放がスタートしました。校舎内に施設開放のシステムが導入されており、図書館も明るく使いやすい設計になっています。町内回覧校HP等を通してPRしている効果もあり、月に200人以上が本を借りて帰ります。現PTAやOBを中心とした地域開放図書館ボランティアは旬の本を買い揃えるなどの工夫をして地域の方々の利用に備えています。



書架の整理をするボランティア

◇西梶ヶ谷小学校では 例年6月第1週より、土日・祝日の10時から14時まで開館されています。各学級1名の保護者が図書委員として選出されて運営にあたっています。また、各学級4名の保護者がカウンタースタッフとして当番制で実務にあたっており、総勢96名が図書館開放にかかわっているのです。話題の新刊の購入など積極的な取組を進め、来館者は月々200人から300人に達しています。西梶ヶ谷小には平日の読み聞かせボランティアの保護者もあり、多くの方が子どもや住民の読書活動を支えています。



カウンターで親子の利用者に貸出中

「私設ゆりがおか児童図書館」が本年ました。故渋谷益左右氏が「喜びは人のもと、東百合丘の地に私財を投じてな取組は川崎市文化賞を受賞するなどゆりの子会など市民ボランティアの活躍児童図書館は閉館されましたが、「……」と願う人たちの思いは子どもへっていくことでしょう。今や情報発信す。そんな時代でも本の持つ力、魅力

※〈閲覧のみの図書室〉 橘高校、上丸子・栗木台の2小学校



幼児を前に読み聞かせ

※〈閲覧・貸出をしている図書室〉 南菅中学校、南加瀬・井田・下河原・西梶ヶ谷・久地・稗原土橋・宿河原・岡上・金程の10小学校

そのほかの取組から ～こども文化センター等の取組など～

市内各地にある“こども文化センター”や“わくわくプラザ”などでも読書や読み聞かせに積極的に取り組んでいます。東百合ヶ丘こども文化センターでは、近くにある私設ゆりがおか児童図書館ボランティアの人たちが3人でチームを組んで読み聞かせをしていました。巧みな朗読と豊かな表情幼児の心を捉えていました。付添いの若いお母さん方も聞き入っていました。

ま・かわさき”の取組



年』も制定され、文字・活字文化の振興に力が注がれています。市立図書館活動報告によると、平成22年度の個人登録者は41万人、貸出冊数の総計が643万冊、1日に19,000冊貸し出されているとのこと。また、自動車文庫の巡回数も年に355回を数えています。今回の特集では読書に関する川崎市内の取組の“今”をご紹介します。地域の図書館・学校図書館等を利用される際の参考になれば幸いです。

※本誌180号（平成23年6月1日発行）では市立図書館の取組について特集しています。ご参照ください。

〈ご家庭でも〉

川崎市の「子ども読書活動推進計画」の基本方針でも、頁に書かれているのは“家庭における読書活動の推進”で特に乳幼児期における保育の本選び、読み聞かせの大切さは論をまちません。市は「えほんだいすき」や「かわさき子ども読書100選」

発行
図書館
学校
配布
していま



の学校、貸出もしている学校があります。「井田小舎改築の看板や学心とした



市民開放用通用門

3月で35年間の営みを終わると共に本と共に」の理念開設した図書館です。熱心高く評価されてきました。動もたいへん活発でした。子どもたちに本の楽しさを、そして次世代へとつなぐ言の手段は多岐にわたりまは不変だと思えます。

取
ラ
で
長沢小わくわくプラザでは長沢中の生徒が小学生に読み聞かせ



〈市立図書館の取組〉

※ お問合せは最寄りの市立図書館へ！

川崎市には計13の市立図書館・分館・閲覧所があります。図書の貸出には“貸出カード”が必要ですが、閲覧は自由です。市立図書館は相互に連携しており、他館の図書を借りることもできます。

研修会などの企画・サービス 各図書館では幼児や児童を対象としたお話会や映画会、大人のための朗読会、感想文や感想画などの展示会、郷土史などの講座等様々な催しを展開しています。各図書館は読書・布の絵本づくり・読み聞かせ・拡大写本制作等の学習活動の拠点にもなっています。

自動車文庫など 住まいが図書館から遠い市民へのサービスとして自動車文庫があり、市内20ヶ所のポイントを2週間に1回巡回しています。また、目や体の不自由な方のために対面朗読や郵送貸出などのサービスもあります。

イベント事業などから

◇各図書館・分館では読書のまち・かわさき事業にちなみ、大人のための朗読会・ビデオ上映会・各種講座など様々な取組を展開しています。“読書のまち・かわさき読書普及講演会”も大切なイベントのひとつ、23年度は日本映画大学佐藤忠男学長の「映画と読書」というお話を聞きました。また神奈川ニュース映画協会制作の“市政ニュース映画”（昭和51～55年分）の上映もあり、参加者は熱心に見入っていました。

◇「川崎フロンターレと本を読もう!」事業は川崎市を本拠地とするサッカーチーム、川崎フロンターレが教育委員会及び市民・子ども局と協働して取り組んでいる読書推奨キャンペーン事業です。選手によるおはなし会、選手が選んだ推薦図書を載せたリーフレット作りなどを展開しています。リーフレットは市立小中学校に配布され、市立図書館でも配布・設置しています。



中学生全員に配られた23年度のリーフレット

〈各種表彰活動〉

毎年、教育委員会による読書活動優秀団体や読書週間ポスターの表彰、川崎北ライオンズクラブによる読書活動実践奨励校表彰など、読書のまち・かわさきにふさわしい優れた取組をした団体・学校・個人の表彰活動が行われています。

〈その他の図書館利用のために〉

大学図書館との連携 川崎市では大学との連携事業を進めています。明治大学生田図書館（044-934-7946）と和光大学附属梅根記念図書・情報館（044-989-7494）は市内在住・在勤者について、市立図書館の貸出カード所持者なら閲覧・館外貸出ができます。和光大学では市立図書館を窓口として取り寄せて借りることも可能です。専修大学本館・生田分館（044-911-1276）は多摩区在住・在勤者の利用が可能です。

盲人図書館 川崎区日進町5-1 川崎市福祉センター内 TEL211-3181（内線303）

昭和37年に開設された川崎市盲人図書館には点字図書、録音図書、CD図書などが用意されています。また、点字訓練・ワープロ訓練・調理訓練など視力に障害がある方のための訓練や相談活動も行っています。詳しくはお尋ねください。

施設めぐり

市内公的施設および本財団が管理運営する施設のご紹介

青少年の家

東急田園都市線宮崎台駅下車徒歩12分 ☎ 044-888-3588

URL <http://homepage3.nifty.com/seisyounen-ie/>

宿泊しながら研修・練習!

青少年の家は、団体の宿泊研修等を通じて健全な青少年の育成を図ることを目的とする社会教育施設です。勉強会や社員研修、サークルの練習等、子どもから大人の方まで幅広くご利用いただくことができます。詳細はHPあるいはお電話等でお問い合わせください。

宿 泊		夏 休 み	日 帰 り
青少年	利用日の属する月の6カ月前～20日前	○川崎市内の青少年団体:4/30(月)までに仮申込書提出、5/13(日)の日程調整会参加等が必要 ○市外青少年団体:5/17(木)から申し込み受け付け	利用日の19日前～3日前
一 般	平 日	土・日・祝祭日、冬休み・春休み	一般団体:5/17(木)から申し込み受け付け
	利用日の属する月の6カ月前～20日前	利用日の属する月の3カ月前～20日前	



放課後おもしろクラブ
～お筆であそぼっ!～

その他、子育て中のお母さんと子どもたちの仲間作りのための「よちよち歩きのあつまれ」、小・中学生を対象にした「こどもエコチャレンジクラブ」や「放課後おもしろクラブ」、青年教室「川崎市青少年の家ユースワーカーズ倶楽部」の他、プール開放・シニア卓球教室等、さまざまな事業に取り組んでいます。

大山街道ふるさと館

☎ 044-813-4705

JR・東急線溝口駅下車徒歩10分
東急線高津駅下車徒歩5分

～ふるさと館の特色を生かす諸事業の推進～

江戸期の重要な脇往還の一つとして栄えた大山街道の宿場(二子・溝口)の面影が残っている地に立地しているふるさと館には、散策の途中でさまざまな資料や説明を求めて多くの人々が立ち寄ります。そこで当館では来館者や利用者のニーズに応える事業として大山街道のガイドブックの作成を進めてきました。郷土史家や有識者などに協力して頂き、4月刊行の予定です。探検クラブの子どもたちもイラストで編集に参加しています。

本年度は街道が生んだ歴史や文化の探求を通して郷土に対する愛着の心と理解がいつそう深まるよう、諸事業を企画しています。文化講演会では大山街道にしばった内容の講演を、また、郷土理解講座では街道を実際に歩く事業や市域全体に及ぶテーマでの講演会を実施する予定です。



探検クラブニヶ領用水の清掃

—主な事業—

- 常設展 大山街道の歴史・民俗・自然に関する資料展示(通年)
- 企画展①「故 上田恒三 展」7月中旬～下旬②「地域が創出した文化展」2月下旬
- 趣味の作品展 6月下旬～7月上旬 □文化講演「街道の歴史・文化にかかわる講演会」3回 □郷土学習支援「ふるさと子ども出前授業」6月 □郷土理解講座①街道の歴史を体感しよう。11月2回②郷土の発展に尽くした人物伝12月 □子ども大山街道探検クラブ 毎月1回 第3水曜日 □郷土(探検クラブ児童の)研究発表会3月上旬



「郷土理解講座、大山街道の歴史を体感」

子ども夢パーク

☎ 044-811-2001

JR南武線津田山駅下車徒歩5分

子ども夢パークは「川崎市子どもの権利に関する条例」に基づいて2003年7月にオープンした施設です。自分の責任で自由に遊び、ありのままにいられる場として、たき火をしたり工具を使ったりできるプレーパーク(冒険遊び場)やサイクリングロード、全天候型スポーツ広場・音楽スタジオ・ログハウス・乳幼児が利用できる部屋「ゆるり」・本が置いてある部屋「ごろり」・不登校児童生徒の居場所「フリースペースえん」などがあります。

夢パークにはたくさんの遊具があります。ウォーターライダーとハンモックも新しくなりました。プレーパークのシンボルであるタワーは3階建て、登るには自分の力が試されます。夢パは子どもたちと一緒に楽しい場をつくり続けています。



【2012年度の主なイベント予定】

- まいにちがプレーパークの日 4/28(土)～5/7(月)火おこし・工具使用可
- ドリームシンフォニー 6/3(日)歌や演奏、踊りなどの野外コンサート
- 夢パまつり祝9周年 7/16(月・祝)オープン記念イベント
- こどもゆめ横丁 11/4(日)子どもたちによる商店街
- クリスマスイベント 12/22(土)夢パークにサンタが登場
- 初夢!新春イベント 1/13(日)もちつき・どんど焼き・書初め・昔遊び



市内施設の各種取組と財団が主催する講座等のご案内

情報ポケット

2012年度 川崎市生涯学習財団の主な事業

(公財)川崎市生涯学習財団は、市民の皆様の生涯学習の支援や、高度な、また専門的な学習ニーズにも対応した学習の場の提供を行うとともに、学校やNPO法人、民間の方々との多様な連携によって事業を展開していきます。



シニア活動の支援

●生涯学習ボランティア養成講座

シニア世代がこれまで培ってきた豊富な経験や、知識・能力等を生かして活動するための講座です。これまでパソコン学習や環境学習、郷土史学習等のボランティア養成講座を行ってきました。今年度もさらに充実した講座を予定しています。



●生涯学習ボランティアの派遣

主に学校へボランティアを派遣し、教育活動の支援を行います。

●シニア活動シンポジウム

シニア活動に関する課題や目指すべき方向性を市民と共に討議します。(2月頃予定)

●地域協働講座

NPO法人かわさき市民アカデミーと協働して、「福祉」「企業連携」「川崎のまちづくり」など、地域との密着性の高い講座を開講しています。

生涯学習情報の収集と提供

●生涯学習情報の収集・整理・提供、学習相談の実施、ホームページの内容の充実、生涯学習情報誌(紙)の発行(川崎市民のための生涯学習情報誌『ステージアップ』偶数月 年6回、『かわさきの生涯学習情報』奇数月と春秋 年8回)

●ふれあいネット「生涯学習情報」:人材・団体・催し物・講座情報等の収集・提供

●教育人材ガイドの発行と学習情報の提供

生涯学習活動の支援

●かわさき市民アカデミー協働事業

NPO法人かわさき市民アカデミーと協働して公益財団としての役割を担い、市民主体のかわさき市民アカデミー事業を推進します。

●健康・体カづくりスポーツ教室

スポーツを通して健康な心と体カづくりが行える教室を開設します。

●生活・文化教室



これまでの「陶芸」に加えて「フラワーアレンジメント」や「英字新聞読解講座」などの幅広い生活・文化教室を開設します。

青少年活動の支援

●ふれあいサマーキャンプ

市内の小中学生を対象に、夏休みを利用して友好関係にある自治体との交流を活かし、豊かな自然や地域の文化等に触れる体験活動を行います。

(7月末～8月中、5コース予定)

●青少年創作教室

小中学生を対象に、陶芸、絵画、工作等の創作活動を行います。

(8月、1月予定)

●たのしいキッズセミナー

小学生(3年生以上)を対象に、夏休みに学習への興味や関心を引き起こすような学習活動を行います。

(7月末～8月上旬予定)



【事業についてのお問合せ】 044-733-6626 へ

あとがき ◆本号の特集「読書のまち・かわさき」の取材で、学校図書館市民開放など読書活動が展開されている現場を訪ねた。そこでは多くの市民が図書館開放事業の立ち上げや啓発活動、日々の実務などにかかわっていた◆2月15日、生涯学習プラザで「新たなシニア世代の仲間づくり～地域貢献活動を通して～」というシンポジウムがあった。地域でのコーラス活動を通して、町内の独居老人見守りネットワーク活動を通して、また、野菜作り・堆肥作り・料理・生ゴミの処理という食の循環にかかわる取組を通して、生き生きと活動している方々のお話を聞いた◆仲間づくりを通して新たな世界を広げている人たちの目は輝いていた◆一歩足を踏み入れて初めて出会える笑顔がある。ともに活動することを通して新たに知る喜びがある。

おしらせ

財団法人川崎市生涯学習財団は、2012年4月1日から公益財団法人川崎市生涯学習財団に移行しました。より公益性の高い取組を進め、川崎市民の生涯学習の推進に一層努めてまいります。

空いている施設の

～生涯学習プラザの施設利用～

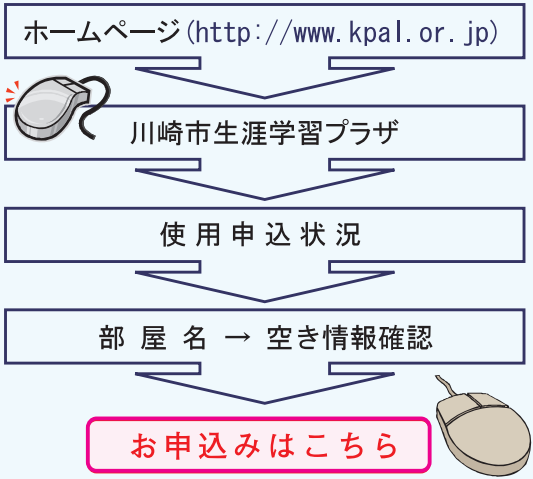
4月からメールで予約申込みができます！

川崎市生涯学習プラザ空き施設の予約申込みが、**4月1日からはメール**でもできるようになりました。 ※携帯メールからの申込みはできません。

プラザホームページ(<http://www.kpal.or.jp>)を開き、下記の手順で進むと申込みができますので、ぜひご利用ください。



メール予約の手順



メールによる申込みの注意点

1. 空き施設の申込み手続きは①プラザ受付カウンターで②電話で③メールでの3通りになります。
 2. メールによる申込みは抽選日の翌々日から使用希望日の3日前の17時までになります。
 3. メール申込みが承認されたか否かは2日以内にメールでお知らせします。承認された場合は使用承諾書をメールで送付します。
- ※1 初めて利用する方は、まず電話でご連絡ください。
 ※2 キャンセルの場合は至急お電話ください。

■詳細の問合せ：生涯学習プラザ 044-733-5560

レモンを、
わたしの
カラダへ。

カモン!
レモン!



POKKA



キレイと元気 **キレトレモン**

ポッカ コーポレーション
<http://www.kire-to.com/>